

総評

どの教科も標準的な難易度の出題でした。中学校の学習内容からのみの出題で範囲が狭いため、比較的高得点を取りやすい出題だったと思います。

中1のはじめに学習した内容は、3年間の学習の中ではほんの一部ですが、受験に向けての学習を積み上げるための土台ともいえるべき重要な内容です。小さなミスも見のがさず、間違えた原因をよく考え、しっかり復習しておきましょう。

道コンのようなテストは、高校に合格できるかどうかを予測するためのものではなく、目標に対する現在の自分の位置を確認するためのものです。どんな目標も、これからの学習次第では、近づいたり、遠のいたりします。結果がよくても安心せず、結果が悪くてもあきらめずに、目標をはっきりさせて学習を進めてください。

国語

標準的な難易度の出題でした。

㊦は(6)、(8)が難しかったようです。漢字は国語の試験だけでなく、日常生活にも必要な知識です。習った漢字は覚えるまでしっかり練習しましょう。㊦の問二は、たとえを用いた表現を見つける問題でした。「たとえ」は「本当のことではないこと」とも言えます。「甲冑をまとっているように」は本当のことではなく、「ように」という言葉からも判断できます。㊦は問三、問五がかなり難しかったようです。問五は、「大きな環境の変化」にふれていない答案が散見されました。文章の内容を正しく読み取る力に加えて、読み取った内容を条件に沿って適切に表現する力を身につけましょう。また、誤字脱字、空欄の前後との接続の不備が目立ちました。よく見直しをして、おいしいミスをなくしましょう。

数学

おおむねよくできています。正負の数の計算では、累乗の計算や、四則計算の順序の誤りが目立ちました。計算は、自分で見て確認できるよう整理して書きましょう。㊦は、計算以外も非常に重要です。間違えた問題はしっかり復習しましょう。㊦は、問2の得点率が良くありません。平均を求める以外にも様々な場面で正負の数を利用して、計算を楽にしましょう。

㊦は、数について成り立つきまりに関する問題が中心でした。解説を読み、問題の意味をよく考えて、もう一度挑戦してみましょう。

文字の式の分野は、これから学習する「方程式」の基礎となる内容です。㊦問1のような、数量を表す式を書く技術は、特に重要です。速さ、割合、代金など、たくさん問題に取り組み、表し方を身につけましょう。

社会

標準的な出題でした。

地理分野では、㊦問4(1)の世界の総人口に占める中国の人口の割合、㊦問2(1)の日本の地方区分、㊦問4の世界の住居に関する記述の問題などでの得点率が低くなりました。日頃の学習から、資料やグラフ、地図などを活用して理解を深めておきましょう。

歴史分野では、㊦問6の紀元前後の日本のようす、㊦問4(3)の西アジアなどでつくられた宝物がどのように日本に伝わったかを問う記述の問題などでの得点率が低くなりました。歴史分野では、それぞれの時代の社会のようすや政治、できごとが起こった年代などに関する問題を苦手とする方が多いです。間違えた問題はそのままにせず、教科書などで確認するようにしましょう。

理科

標準的な難易度の出題でした。

今回は基本的な内容が多く出題されていました。間違えたところの他に、すぐに答えが分からなかったところや、悩んだところも、しっかりと教科書などで復習して、今のうちに確実に身につけておきましょう。

語句を答える問題や、知識中心の問題はよくできていましたが、計算問題や、実験や観察の結果をもとにして思考するものなど、思考力や応用力が必要とされるような問題は得点率が低くなるものが多かったようです。

これらの問題の対策はくり返し演習をかさねることが重要です。暗記だけでは高い得点をとることはできません。学習した内容が多くない今の時期に取り組んでおくと、優位に立つことができます。後回しにせず早くから始めておくことが大切です。

英語

標準的な難易度の出題でした。

小学校でも英語の学習をしてきたことに加え、今回は出題範囲がせまく、内容が限られていたため、易しく感じた人が多いかもしれません。一方で、英語のきまりにまだ慣れていないことによって、大文字・小文字や符号などのミス、英単語のスペルミスも多く見られました。

㊦はリスニングの問題でした。今春に行われた北海道の公立高校入試では、リスニングの配点が35点と全体の3分の1以上を占めており、以前より重要度は増しています。まずは単語や文法を身につけることが重要ですが、リスニングにも慣れておきましょう。

今後は、英単語や英文を1つ1つ丁寧に書くことを意識して学習しましょう。また、間違えた問題があった人は学習内容が少ない今のうちに復習しておきましょう。